



THE
WAKASA
WAN
ENERGY
RESEARCH
CENTER

(財) 若狭湾エネルギー研究センター

平成22年1月18日発行

エネ研 ニュース

21号

<http://www.werc.or.jp/>

新年あけましておめでとうございます。

エネ研は21年度に第2期中期計画を終え、22年度は第3期中期計画が始まる節目の年になります。昨年は陽子線がん治療臨床研究の終了やエネルギー研究開発拠点化計画の中では原子力保健技術技量認定制度等、着実に成果が現れてきましたが、各職員一丸となり、世界に羽ばたくエネ研へと挑戦していくよう努力してまいります。

本年も皆様方のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

世界へ羽ばたけ！

エネ研と世界との関わりをご紹介します。

エネ研の国際交流



エネ研では、世界の各国の大学や研究機関と研究・研修の協力を積極的に行っています。

陽子線がん治療では、先進各国の研究者と、太陽炉では、サウジアラビアやアラブ首長国連邦等の日照時間の多い地域と、また近年、ベトナムやスリランカ等アジアの国とエネ研の加速器からのイオンビームを用いた植物の品種改良における研究・研修協力が進んでいます。

ベトナム原子力委員会工業用原子力技術応用センター (CANTI) と研究協力協定締結！

文部科学省「原子力研究交流制度」によるアジア諸国原子力研究者の研修（品種改良）により CANTI の LE Trieu Ngoc 氏をエネ研で受け入れた（平成20年10月～平成21年6月）ことを契機に、平成21年11月5日に研究協力協定締結に至りました。

今後、植物の優良品種作出や CANTI に新たに設置が予定されているガンマ線照射施設のための新たな照射方法を研究開発していく予定です。

このほかにも、タイのチュラロンコン大学工学部との研究・研究協力も鋭意進めているところです。



エネ研で研修中の LE さん
(昨年5月)

ようこそ スリランカからエネ研へ

植物品種改良の研修生です！

スリランカ米研究開発研究所のPriyanthi (プリヤンティ) さんです。
文部科学省の原子力研究交流制度の研修生としてエネ研に本年6月
まで滞在予定で、放射線の農業利用 (品種改良) を学んでいます。



「つるが国際交流祭り (12月3日)」で母国のスリランカを紹介するプリヤンティさん

Q1 日本滞りが決まったのいつごろですか？

A 私は2008年5月に、2009年1月コースに選ばれたことを伝えられ、様々な研修の後、2009年9月7日にエネ研に来ました。

Q2 日本で期待していることは？

A 日本に来たことのある友人たちは、みな好印象を語っていました。私もよく研修するだけでなく、日本の生活や文化を学び、歴史や魅力のある場所へ行ってみたいと思っています。

Q3 日本に来てみてどうですか？

A スリランカでは日本のTV番組もたくさんあり、有名な「おしん」も見っていました。雪を見たいと思ってはいたものの、実際に降った雪には感動しました。雪の中の生活は大変だけれども、雪は好きだし、すごい経験をしたと思います。また今は、日本語の勉強も頑張っています。

Q4 大学やその後の業務は？

A 農業分野の科学修士課程後、農業のモニタリングの仕事をして9年間しました。2000年から7年間、穀物の開発機関で大豆やささげ豆の育種に携わり、2008年から、現在の所属で米の育種研究をしています。

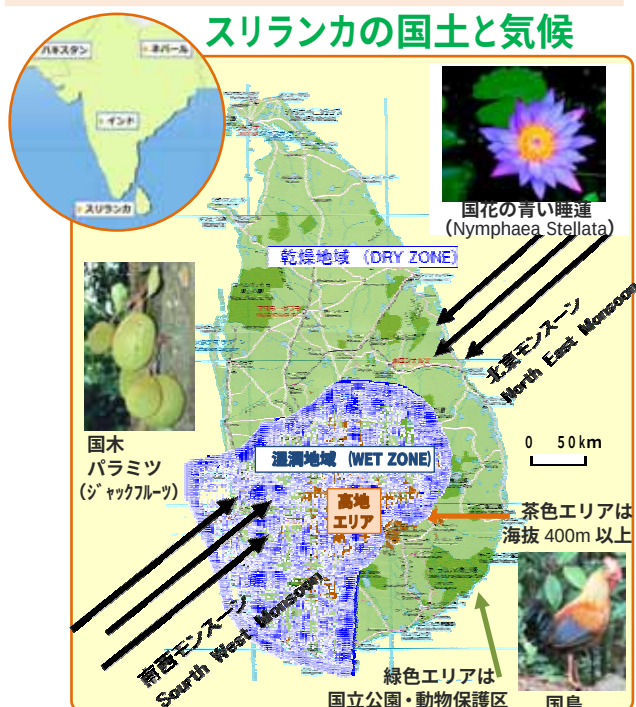
Q5 スリランカの農業の課題は？

A 米が安定した主食で、農家の収入向上が課題です。米の生産性と品質向上の2大目標があり、栄養面や色・形などの改良と同様に、病・害虫および干ばつなどへの耐性のある品種を育成して貢献したいです。エネ研にいる間、イオンビームの応用方法について、植物 (特に稲) にどのような効果を与えるのか学んでいます。

スリランカ民主社会主義共和国 (旧国名:セイロン) って？

農林水産業が基幹産業。主な農産物は、コメ、紅茶、ココナッツ、天然ゴム等。紅茶は、中国、インドに次いで世界第3位の生産国。

スリランカの国土と気候



北東季節風により11月前後から5月頃まで乾燥した気候。6月から9月まで、南西季節風 (インドモンスーン) による長い雨季。雨季に年間降水量の4分の3以上の降雨がある。このような東南アジア諸国は、米の二期作・三期作ができる稲作の好適地。



エネ研の植物育成室でイネを育成しているところです。今回は日本の品種であるコシヒカリと日本晴に12月4日に陽子線とX線を照射しました。研修の終了する6月までには、育成結果のデータが取得される見込みです。



Asia-Pacific
Economic Cooperation

成功させよう 2010 年日本 APEC (エイベック)

